卵粒を受容するだけの弾力性を與へることが困難な爲であると考へられる。之に對して硝子鉢では內壁の曲面によつて常に絹布と內壁との間に一定の間隔が出來るので、卵は安全にその弾力性ある絹布上に止められるのであらう。然し硝子容器も歩行などの點から見て、必ずしもこの蜘蛛にとつて最も好ましい容器でないことは明かであり、この點に關しては更に工夫の必要があると考へる。

朝鮮人の蜘蛛利用

岡 本 大 二 郎

兵庫縣三原郡阿萬町鹽屋620

私は朝鮮水原の農業學校に勤務中朝鮮の有用昆蟲の調査を企て、生徒に自分が又は家庭に於て利用した昆蟲に就き書かせたことがある。其時は昆蟲に限り蜘蛛に就いては別に調べるつもりであつたが、終戰、引揚により遂に其機會を失つて仕舞つた。上記調査票に昆蟲と思つて蜘蛛のことを書込んだ者が若干(149名中16名)あつたので、計畫的調査の不可能となつた今日のことゝて、不備乍ら本誌の餘白をかり一應記錄に止めておくことにした。何れも單にクモと記してゐたが形態習性等の說明より種名を推定した。

オホヒメグモを藥用に(6名)腫物(特に後頭の眞中に出來るもの)の藥に用ひ、利用回數は4名は多く2名は少い。腹部を手で潰して汁を其巢をまるめたもの(脫脂綿の代り)につけ、之を腫物の上にはりつけておくと膿をよく吸出し直ぐなほると云ふ。此話を折に觸れ生徒に持出してみると大抵知つて居り經驗者も多かつた。オホヒメグモを朝鮮語でヤクコミ(yak-ko-mi)と云ふ。ヤクは藥のこと、コミは蜘蛛のことで藥にする蜘蛛の意。

ドクグモの1種を魚釣餌料に(5名)本種は草叢等を這廻つてゐるものである。利用回數は3名は多く2名は少い。手で其儘採つたり足で輕くふんで採り、採つたものを其儘釣針に挿して用ひる。

オニグモを食用に（2名）2名共食つた回數は少い。箒や棒で採り、頭胸部を捨て腹部のみを燒いて食ふと美味しいと云ふ。

オニグモを藥用に（2名）1名は痔の藥にして居り利用回數は多い。腹部の汁を使ふと云ふが內服か外用か文面にて不明、恐らく外用と思ふ。他の1名は何の藥にしたか記してなく利用回數は少い。燒いて粉末にして使ふと云ふが內服か外用か不明。

オニグモを鷄飼料に（1名）利用回數は少い。採つたものを其儘與へる。

尙調査票には記されてなかつたが子供が**クモ類の巢を捕蟲網に**用ひる。竿の先に針金、竹、ポプラ、柳、萩、アカシヤ等で作つた輪をつけ之に巢を張る。こんな網を持つてトンボやセミを追かけまはしてゐるのが夏中常に見られる。